

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成19年10月10日
事業所名	高齢者グループホーム 小原安立
事業所番号	2376100174
記入者名	職名 管理者 氏名 宇都山千鶴子
連絡先電話番号	0565-66-0032

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・地域の中で安心して暮らしていけるサービスとしての理念が玄関に掲げられている。</p> <p>○</p>	<p>・より具現化したサービスの目標を定期的に確認している</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・日々のミーティングにてチームワークを意識しながら話し合い実践が理念に基づいて行くよう取り組んでいる。</p> <p>・廊下に掲示し常に目に付くようにしている。</p> <p>○</p>	<p>・職員全員が理念について理解し、日々のケアの中で実践していけるよう日々確認しあっている。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>・地域のイベントに積極的に参加している。また、買物に行くことにより地域の方々と触れあえる機会を作っている。</p> <p>・同敷地内のビレッジで行われる夏祭り等のイベントには地域の参加がある。</p> <p>・家族へは、面会時にホーム広報誌、ビデオ等で伝えている。</p> <p>○</p>	<p>・将来構想検討委員会や運営推進会議を通し、より浸透させたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・散歩や買物、行事での参加で、近隣の方と挨拶を交わしている。</p> <p>○</p>	<p>・色々な人が気軽に立ち寄ってもらえるよう開放的なホームにしていきたい。</p> <p>・行事企画の中でも、お年寄りや子どもにも声を掛け、一緒に楽しく機会を作り馴染んでいけるようにしたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・地域の行事などに参加したり、外出行事に地元の農園を利用するなど地域の人とのふれあいに努めている。</p> <p>○</p>	<p>・入居者一人ひとりの気持や体調に合わせ、地域活動(道路掃除、交通事故ゼロの推進街頭活動)に努めたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・見学に来られた家族の方には、介護援助方法について伝えているが、直接地域に向けては取り組んでいない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・職員全員で自己評価に取り組みチームとしての共通の意識を持ち、仕事をする様心掛けている。	○	・評価の意義と狙いについて、学びサービスの向上に努めている。 ・指摘された内容について、具体的の方策を練っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・民生委員、包括支援センター、老人クラブ、などの参加がありホームの運営状況報告、利用者のサービスの実際などパワーポイントを使い、視野でアピールし理解を得ながら質の確保を図っている。	○	・意見を聴き、サービス向上に活かしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・グループホーム連絡協議会、豊田市介護サービス向上連絡会等に参加し意見交流を行い、外部情報を得ながら自施設のサービス向上に努めている。 ・相談員の意見を共有しながら、課題解決に向けて取り組んでいる。 ・施設長は市の行政と連携、協議して取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・職員には、資料などを渡し、制度の存在を知っている。 ・成年後見制度をすでに活用している方も見える。	○	・今後も必要なケースに備え、勉強会などの機会を通し、職員の更なる理解を深めるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・ミーティングや研修会受講等を通して、虐待についての理解を深め、絶対にあってはならないという意識で支援にあたっている。	○	・新聞、雑誌等で今後も情報を流し、周知徹底していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所見学や契約時に説明し、何度でも家族の理解が得られるまで説明をしている。 ・玄関にも掲げいつでも見られるようになっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・日々の生活の中で、聴き取ったものを引継ぎやカンファレンスで話し合っている。 ・介護相談員を月に一度派遣して頂き、利用者の相談にのってもらっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・広報誌(うぐいす便り)を発行したり、面会時介護記録を見て頂き説明報告し、健康状態はその都度連絡相談をおこない連携を図っている。 ・家族の来訪時に近況の報告は欠かさず行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護記録や面会時家族とコミュニケーションを図り意見、不満、苦情などを言ってもらえるように働きかけ、出された意見を受け止めサービスの向上に活かしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議など随時行い職員の要望や意見を聞き、早急に対応できるものは対応し、十分な時間が必要なものはその旨を伝えるなど聴く機会がある。	○ ・今まで以上に職員の意見を反映させていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・グループリーダーを中心に、職員で話し合いを進め勤務調整(希望も取り入れ)を工夫している。	○ ・必要に応じて、ボランティアの協力を受けるなどの体制を作っていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・異動は控える努力をしている。離職や新採用には、できる限り利用者のダメージを防ぐよう統一したケアに心掛けている。 ・新職員が利用者理解が得られるまで引継ぎ、受け入れができるよう工夫している。	○ ・職員が気持ちよく働けるような職場作りを、引続きしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・職員の質の確保向上に向け、内部、外部の研修会の場を提供し育成に熱心に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>・計画的な研修と必要に合致した研修に取り組んで行きたい。 ・おりにふれ介護の知識、理解を深め質の向上に向けた話をしている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・同業者との交流の機会がありサービスの向上に努めている。 ・グループホーム連絡協議会に参加し他の同業者の訪問見学も快く受け入れ情報交換を行いながらサービスの質の向上を行っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・一人ひとりに相談の機会を設けるなど、耳を傾け助言している。 ・無理のない勤務表作成を心掛け、速やかに業務や勤務者の調整を行っている。</p>	<p>○</p> <p>・引続き希望に応じた有休の処理ができるようにしたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・頻繁にホームへ足を運び利用者の様子や職員の話聞き悩みや不安の相談を受けている。 ・職員が向上心を持って働くために、積極的な研修への参加を促している。 ・個人目標の遂行状況を把握している。</p>	<p>○</p> <p>・職員一人ひとりが何でも話せる信頼できる関係作りに努めている。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・相談時には、本人や関係者から事情を聴き情報を集めている。 ・入居前には、受け入れ体制を整え、職員には情報の共有を図り、不安を取り除くようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・ホームに来ていただき、安心して入居できるよう、見学相談を受けている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人の様子や変化を逃がさず、必要な支援の対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居前に情報の検討を全職員で十分に行い、入居後に不安が最小限になるよう取り組みがなされている。 ・本人の安心と納得を大切に利用の支援を行うために利用開始前に職員が会いに行ったりホームに来て頂くなど、本人が職員やホームに徐々に馴染みながら本格的な利用に移って行ける様支援している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員は利用者一人ひとりの生活歴を理解し、共に一緒に考えたり、教えてもらう事で支えあう関係作りをしている。	○	・お互いに協働しながら支え合い明るさのある生活が送れるよう心掛けていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・利用者の状況を面会時に報告したり、相談したい内容があれば、家族側の気持ちを確認しながら進めている。 ・面会や行事等に誘い、よい関係作りに努めている。	○	・全職員が共有した内容としている。 ・面会、行事の参加を増やしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・日頃の状態をどんな小さい事でもこまめに報告・相談し、本人と家族の思いがたぐような働きかけをしている。	○	・うぐいす便りを発行し一人ひとり必要事項をお伝えしたりお願いしたりしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	・馴染みの小売店に出向き関係が切れないようにしている。 ・地域の行事などに外出の機会を設け、地域に暮らす知人などとの継続的な交流ができるよう努めている。	○	・地域の行事や買い物に外出し、馴染みの人との交流を深めていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・食事やお茶の時間などに会話がスムーズに進むよう、職員も一緒にお茶を楽しみ多くの会話をもつことで、利用者同士が旨く関わり合うように努めている。	○	・職員全員が情報を共有し見守り、その場その場で友好的関係作りをしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・サービスの利用が終了された方も、気軽によつていただき継続的な付き合いが出来る様に努めている。	○	・行事の案内を出していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりの中で今どうしたいのか、職員一人ひとりが本人や家族の意向に関心を払い、言葉や表情などからも真意を測ったりして把握に努めている。	○	・本人のその時々々の意向など、職員が共有し家族からの意向や希望など何でも話してもらえる関係作りをしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・生活歴や生活環境などについて聴き取り、利用者自身や家族、知人など訪問時に職員全体で収集し把握に努めている。	○	・家族や本人、友人などの話から少しずつ把握している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・一日の過ごし方や生活が職員が支援することで把握し残存能力を生かせるよう一人ひとりの生活リズムの中から感じ取りその人全体の把握に努めている。	○	・職員がサポートすれば出来る事が多いので一緒に取り組んでいる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○ケアチームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人や家族に日々の関わりの中で思いや意見を聞き介護計画に反映させるようにしている。また、全体会議で確認し職員全員で利用者本意の介護計画を作成している。	○	・本人や家族の要望を聞き自分らしく暮らせるように職員全体で随時意見交換している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画は、本人や家族の要望や変化に応じて、本人、家族、必要な関係者と話し合い利用者それぞれに合わせ、随時の見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録様式に介護者の気付き、利用者の行動や言動を記録し総合的把握が出来る様に努めている。個別に記載し介護記録に具体的に記録している。	○	安定している利用者でも、小さな気付きを見落とさないようプランの変更をしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・現在、多機能性を活かした支援はできていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・民生委員の方から、地区の行事への誘いを受けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・訪問陶芸教室、理美容サービスも希望に応じて行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・包括支援センター主催のふれあい祭りの参加や運営推進会議に参加して頂き、必要時意見を聞かせていただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人のこれまでのかかりつけ医の継続で家族同伴による受診を行っている。又緊急時には家族の希望があれば協力医療機関への受診が受けられるよう支援している。	○	・契約時に説明し同意を得ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・専門医の医療機関に「協力病院」としての受入れ体制をお願いしている。	○	・変化していく認知症状に対応しながら、現状を把握していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・併設事業所から、看護師が日勤時間帯の勤務時に、日常の健康管理の把握や、緊急時には必要な支援体制ができています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・家族やソーシャルワーカーと連絡を取り、回復状況など把握し家族と情報を共有し、今後について話し合っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・入居時に家族や本人に説明し、同意を得ている。 ・重度化した場合は、その都度家族と相談している。	○	・入居時に同意されているが、その都度確認や話し合いを持っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・急変した場合はすぐに対応して頂ける医療機関を持ち連携を密にしている。 ・母体は特養であり重度化やターミナルの対象者は特養での受け入れも考えられるが、待機者も多く現実的に難しい。	○	・現在のところ、ターミナル介護を実施する予定は無い。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・これまでの生活環境、支援内容、注意事項など必要な点について情報提供している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員の利用者に対するさりげない言葉かけや、一人ひとりの誇りを尊重しプライバシーを損ねない支援を心掛け、対応が職員に浸透している。	○ ・個人情報の取り扱いについては、採用時に説明している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・利用者の表情を読み取り、ゆっくりとわかりやすい言葉で話し、利用者自身で決定する場面を作っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・毎日の生活の中で、基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調やペースを大切に、その場の状況に応じて配慮、個別性のある支援に努めている。	○ ・日々の行動、表情の把握に努める。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・基本的には個人の自由に任せ、清潔な服装を身につけているか、重ね着はしていないか寒暖の調整を支援し、希望があれば理美容など事業所で支援をしている。	○ ・外出、誕生日、行事などは特に身だしなみを整えている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の準備や片付け等食事に関する一連の作業は、指示や義務でやるのではなく、利用者がやってみたいという前向きな意志や、気持ちを引き出す声掛けや場面作りを大切に支援を行っている。 ・利用者と職員は同じ食卓を囲んで同じ物を食し、笑い声や会話のある明るい楽しい雰囲気ですべてしている。	○ ・利用者と職員でその日のメニューを考えている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・利用者の嗜好にあわせ日常的に用意している。	○ ・全員が女性なのであまりアルコールは希望が無い、正月、誕生日や行事などにその都度話し合い出でていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄の声掛け、確認、誘導など個々に合わせた対応をしている。また、状況に応じてシャワートイレの利用を進めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は一日おきで利用者本人のその時々希望を大切に支援を行っている。 ・入浴を拒む人に対しては言葉かけや対応の工夫をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・日中の活動を促し、体調や表情を見ながら生活のリズムを整え、日中の休息時間を適度に設けている。	○	・体調に合わせて散歩、畑仕事など個々にあった活動の後には、休息したり臥床するよう配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・食事の準備、片付けなど自然と役割が決まり行われている。 ・職員は個々の生活歴を理解し日々話し合いながら潤いのある生活が送れるよう支援している。	○	・日課、ラッキョウ漬け、干し柿、園芸、畑など利用者の経験を活かし、歌ったり昔話をしながら楽しくできるよう支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個人管理能力に応じて個人的に金銭管理を行っている利用者もいる。	○	・利用者自身がお金を使用できるよう支援して行きたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・その日の利用者の希望に合わせて近くの名水を汲みに行ったりドライブ、買い物など日常的に外出出来る様に個別の支援を行っている。 ・散歩、畑への収穫等の活動も体調に考慮しながら支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・地域行事や季節のイベント等外出の機会を設けている。	○	・家族と相談し短い時間でも家族と外出したり、家に帰れるよう働きかけたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話機は設置され、手紙の投函もできる環境である。 ・家族や大切な人に自らが、電話や手紙のやり取りが行えている。	○	・電話を掛けたいと言われた時は付き添い、電話をしていただいている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・家族、知人、友人など馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問できるようにしている。	○	・面会時間は定めているものの、仕事の帰りや時間のある時はいつでも来て頂けるよう柔軟に対応している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束はしていない。	○	・ベットを低くしたり、ベットの足元には滑り止めマットを置き、又畳みを利用したり工夫をしている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・全ての職員が施錠され外に出られない事の異常性を認識している。 ・居室や玄関には日中は鍵をかけずに利用者の自由な暮らしを支援している。	○	・職員が一人の勤務時の場合危険防止策として、どうしても困難な場合に限り玄関の施錠を余儀なくする場合も出てくると思うが、のれんに音のするものをつけるなど工夫をし支援して行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・利用者全員の状態を把握できる場所で業務(記録など)を行いながら、全員の行動を見守り安全で自由に生活出来るよう支援している。	○	・夜間はいつでも対応出来る様、音の聞こえる所で仮眠し危険を回避している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・一人ひとりの状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。	○	・利用者の状況を考慮しながら対応している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・一人ひとりの状態を把握し、事故が未然に防げるようカンファレンスで話し合い共有認識を持てるよう努めている。	○	・事故が発生した場合、事故報告書ヒヤリハットを作成し、事故原因の把握と今後の予防対策について検討し家族への説明と報告を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・緊急時の対応マニュアルを作成し全職員が「普通救命講習」を受講し又必要な応急処置を内部研修で学び緊急時に対応できるように訓練している。	○	・全職員が応急手当が出来る様に一回の救急救命講習会への参加にとどまらず自主的に何度でも挑戦してもらえるようにして行く。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・併設特養と共に消防署や災害対策担当者の指導の下に、避難訓練や通報訓練、消火器の使用方法などを職員と利用者が一緒に定期的に訓練している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・利用者が安全な暮らしをしていくにも、危険も伴うこともあることをご家族に説明し、同意を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・午前午後のバイタル測定実施し常に顔色や様子に注意し、小さな気付きを見落とさないよう全職員に徹底している。	○	・わずかな「あれっ」と思った時点でそのままにせず報告する様にしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・現在内服薬について、職員が内容を把握し一回ずつ準備し、利用者の状態に応じて手渡し服薬を確認している。	○	・薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化が診られた時など詳細に記録し看護師との連携を図っていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・主食に、こんにやく製粉を混ぜて炊いたり、牛乳、栄養サプリメント、を取り入れたりし、食材の工夫、散歩、体操など取り入れることで自然な排便が出来るよう取り組んでいる。	○	・看護師や栄養士とも連携の中で、水分摂取量、運動、献立を見直し自然排便ができる食材など工夫していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後の歯磨きの声掛けを行い、又出来ない人は洗面所に誘導し見守り介助など食後の歯磨きを習慣付けている。	○	・なるべく自分で歯磨き出来る様に一人ひとりに応じた支援を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養士や看護員のアドバイスを受けながら栄養のバランス、水分不足が起こらないよう支援している。(水分摂取量、食事摂取状況を記録している)		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・併設の特養に感染予防対策委員会があり、定期的に会議を開催マニュアルに基づき全職員に周知徹底し、利用者は手洗い、うがいなど予防対策を行っている。	○	・インフルエンザ予防接種、やペーパータオルの使用、テーブル、ソファ、椅子手摺りなどの消毒や地域の感染症に関して情報収集を行い予防対策に努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・まな板、布巾等は毎日消毒し、衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。ホーム内の畑で収穫したした物も使っている。	○	・冷蔵庫を過信せず点検を日々行い、賞味期限切れの者は始末している。・調理器具や台所の水周りの衛生を保つように努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関庭先に花など植え、付近にベンチやプランターを置くなど工夫し、安全で開放的になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・食堂は自然の採光と程よい室温に調節され空気のよどみもなく、要所要所には観葉植物や季節の花が置かれ、壁には写真を貼り利用者が心地よく過ごせるよう配慮している。	○	・フロアーに四季折々の創作の飾り付けがしてある。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・談話室にはソファや畳みコーナー(堀コタツ)があり、一人になったり気の合った利用者同士が話をしたりするペースがある。	○	・利用者が人の気配を感じながら自由に過ごせる空間がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室のベットメイキングは利用者が気持ちよく過ごせるように常に心掛けている。自宅で使用していた馴染みのものを持ち込みそれぞれ好む部屋作りを行っている。	○	・使い慣れた日用品や、仏壇など持ち込み安心して暮らせるよう工夫している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・換気、空調の設備があり、温度計と湿度計を設置し、様子を見て調整している。	○	・定期的にはエアコンや加湿器掃除を行っている。空気の入替えやトイレの換気をして悪臭が出ないようにしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内はバリアフリーであり、要所要所に手摺が設置され、安全確保と自立支援への配慮がある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・安全を考慮し出来る限り「出来ることを」行ってもらっている。 ・本人に分かりやすい目印をつけ、不安や混乱を避けるなど入居者の理解度に合わせた工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・畑を作り、利用者の希望にあわせ野菜や花を植え、一緒に育てたり収穫し活動意欲を引き出している。	○	・建物の外周は緑に覆われ自然豊かな環境の下、散歩に行き、途中山菜や野菜の収穫したり、ところどころにあるベンチで休めるようになっている。

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりの入居者の思いを大切に介護を実践し、ご本人や家族が安心して頂けるよう取り組んでいます。今後も、地域行事の参加も積極的におこない、地域に根ざしたグループホームにしていきたい。